

初期近代英語における *provide* 類動詞が現れる 二重目的語構文

松 元 浩 一

Double Object Construction Including *Provide*-Type Verbs in Early Modern English

Koh-ichi MATSUMOTO

1 はじめに

二重目的語構文 (1a) および (2a) は、通例、(1b) に挙げる *to*-前置詞構文や (2b) に挙げる *for*-前置詞構文と交替が可能である。

- (1) a. I could not *give* you three-pence again. (MM.II.i.103)
b. *Give* this ring *to* my true knight. (ROM.III.ii.142)
- (2) a. he'll *buy* me a horse in Smithfield; (2H6.I.ii.53)
b. Some dozen Romans of us and your lord
(The best feather of our wing) have mingled sums
To *buy* a present *for* the Emperor; (CYM.I.vi.185-7)

ところが、授与、供与を表す動詞のなかには、以下の (3d) と (4c) に示すように、*with*-前置詞構文とも交替する二重目的語動詞が見られる。

- (3) a. *Provide* me soldiers, lords. (2H6.III.i.319)
b. Al thyng that God and nature hath *prouydyd to* hym. (OED. 1538 Starkey
England I.i.10)
c. Lord, what musick hast thou *provided for* the Saint in Heaven, ...?
(Walton, 16/21)
d. As for fish, truly, sir, we are an inland town, and indifferently *provided with* fish, that's the truth on't; (Farquhar, I.i.252-3)
- (4) a. Will you reject that noble and free league
Of amity and love which I *present* you? (Webster, III.v.42-3)
b. I also am
Longer to live most weary, and *present*
My throat *to* thee and *to* thy ancient malice; (COR.IV.v.94-6)

- c. I did *present* him *with* the Paris balls. (H5.II.iv.131)

以下では、便宜上、*with*-前置詞構文と交替する二重目的語動詞を「*provide*類二重目的語動詞」と呼ぶことにする。*provide*類二重目的語動詞は、以下に挙げるとおり、今日の英語においても二重目的語構文のほかに *to*-前置詞構文、*for*-前置詞構文、*with*-前置詞構文と交替が可能である。

- (5) a. Society has *provided* young people no rituals. (Joseph Campbell & Bill Moyers, *The Power of Myth* [1989, p. 5])
 b. He *provided* a handsome sum of money *for* his wife and children.
 c. He *provided* his wife and children *with* a handsome sum of money.
 (6) a. He *presented* the college an endowment. (*The American Heritage Dictionary of the English Language* [1980])
 b. She *presented* many endowments *to* the institute.
 c. She *presented* the institute *with* many endowments.
 (7) a. They *served* the guests minestrone soup.
 b. They *served* minestrone soup *to* the guests.
 c. They *served* the guests *with* minestrone soup.
 (8) a. They *issued* us a ticket.
 b. Work permits were *issued to* only 5% of those who applied for them.
 c. They *issued* us *with* a ticket.
 (9) a. This *left* us no alternative but to cancel the show.
 b. She *left* £1 million *to* her daughter.
 c. This *left* us *with* no alternative but to cancel the show. ((7), (8 a·c), (9 a·c): Huddleston and Pullum 2002: p. 312; (8 b), (9 b): OALD⁶)

尾上 (1957, pp. 100-1) は、*provide*類動詞が現れる二重目的語構文は今日でもアメリカ英語にしばしば見られることを指摘し、竹林 (1988, pp. 296-7) は、授与動詞との意味的な類推によってこれらの動詞が二重目的語構文に現れるようになったと述べる。小西 (1980, p. 1146) は、*with*-前置詞構文の前置詞 *with* が省略されて二重目的語構文になったと言う。*provide*類動詞は (1) から (9) に挙げたとおり、初期近代英語から現代英語に至るまで *with*-前置詞構文と二重目的語構文の両方に見られるのだが、歴史的に見ると、その発達状況はどのように位置づけられるであろうか。OED (s. v. *present*, v. 13) は、動詞 *present* が現れる *with*-前置詞構文は1300年前後から英語において独自に発達し、古フランス語やラテン語の影響によって発達したものではないと指摘している。しかし、他の動詞が生起する *with*-前置詞構文や二重目的語構文に関しては、本格的な先行研究はほとんど見当たらない。以下では、初期近代英語にはどのような *provide*類動詞が二重目的語構文と *with*-前置詞構文に現れるかを実証的に考察する。また、これらの動詞が *with*-前置詞構文のほかにどのような前置詞構文に現れるかも合わせて考察する。

調査したテキストは16世紀初頭の John Fisher, "Sermon Sayd in the Cathedrall

Chyrche of Saynt Paule within the Cyte of London" [1509] から George Farquhar, *The Beaux-Stratagem* [1707] に至る100作品である。引用例の出典は、Shakespeare は Marvin Spevack, *The Harvard Concordance to Shakespeare* (Hildesheim: Georg Olms, 1973) に従って作品名を略記し、他は作者名と行数、散文作品は作者名と頁数および行数を示す。

2 初期近代英語に見られる *provide* 類二重目的語動詞

初期近代英語に関して、*with*-前置詞構文と交替する *provide* 類二重目的語動詞を示すと表 I のようになる。表 I では *provide* 類二重目的語動詞を、今日でも見られる動詞、今日では稀な動詞、今日では廃用になっている動詞に分類し、二重目的語構文と各前置詞構文に現れる動詞の出現数を示す。DOC (Double Object Construction) は二重目的語構文、WITH は *with*-前置詞構文、FOR は *for*-前置詞構文、TO は *to*-前置詞構文、ON は *on*-前置詞構文を表している。

〈表 I〉 初期近代英語に見られる *provide* 類二重目的語動詞

A. 今日でも見られる動詞

	DOC	WITH	FOR	TO	ON
feed	2	46	0	0	0
fill	10	114	0	0	0
furnish	3	49	0	1	0
present	9	25	0	42	0
provide	18	4	23	1	0
supply	0	12	0	0	0

B. 今日では稀な動詞

arm	1	2	0	0	0
charge	1	12	0	0	0
hang	1	2	0	0	0

C. 今日では廃用になっている動詞

bestow	1	2	0	1	72
fit	1	8	0	0	0
possess	2	31	0	1	0

全体的に見ると、初期近代英語では *provide* 類二重目的語動詞は12種が観察され、前置詞構文に圧倒的に数多く見られる。このうち、*hang* は、用例数が少ないのでどの構文に多く見られるかは即断できない。動詞 *provide* は、二重目的語構文が *with*-前置詞構文を数

のうえで圧倒し、*for*-前置詞構文に迫る勢いを見せている。このことから初期近代英語では *provide* に関するかぎり二重目的語構文がかなり定着していたと考えられる。Huddleston and Pullum (2002, pp. 312-4) によると、今日の英米語においても *provide* 類二重目的語動詞は全体的に前置詞構文に圧倒的に多く見られる傾向があるという。しかし、詳しく見てみると、表 I に示した *provide* 類二重目的語動詞が二重目的語構文と各種前置詞構文のいずれに多く現れるかは、初期近代英語に関する限り、動詞ごとに異なっている。動詞 *charge, feed, fill, furnish, fit, possess, supply* は *with*-前置詞構文に多く見られるが、*provide* は *for*-前置詞構文に、*present* は *to*-前置詞構文に、*bestow* は *on*-前置詞構文に圧倒的に多く見られる。以下では、各動詞ごとに例示しながらその特性を考察してみたい。例文は、(a) には二重目的語構文を、(b) には *with*-前置詞構文を、(c) または (d) にはその他の前置詞構文を挙げる。(a) に挙げる二重目的語構文のうち5種の動詞 *charge, fill, fit, hang, possess* は、OEDにも二重目的語構文の用例が示されておらず、本研究で新たに見られた動詞である。

A. 今日でも見られる動詞

2.1 *feed*

二重目的語構文が2例、*with*-前置詞構文が46例見られ、圧倒的に *with*-前置詞構文が優勢である。OED (s. v. *feed*, v. 1) にはc950年に二重目的語構文の例が見られるが、本調査での最も早い例は Tyndale (1530) の例 (10a) である。*with*-前置詞構文の初出例はc1000年 'He hi *fedde mid* fætre lynde hwæte.' という例がOEDに示されている。また、今日では 'we *fed* the scraps to the pig.' (LAAD) のような *to*-前置詞構文も見られるが、本調査やOEDには見られないことから、動詞 *feed* の *to*-前置詞構文は初期近代英語ではほとんど発達していないと考えられる。以下に二重目的語構文は2例とも示す。

- (10) a. the God which hath *fed* me all my life long unto this day, (Tyndale, ch. 48, 23)
 for my folkes are so corn *fed*, that wee haue much adoe to please them in their dyet: (Deloney, VIII, 135-6)
- b. they should keepe a venemous toothd Cur, and *feed* him *with* the crums that fall from the table, (Nashe, 191/9-10)

2.2 *fill*

二重目的語構文が10例、*with*-前置詞構文が114例見られ、圧倒的に *with*-前置詞構文が優勢である。OED (s. v. *fill*, v. 1) には二重目的語構文の例は見られないが、以下に挙げるように、初期近代英語には最も早い例として Shakespeare (1597-8) の例が見られる。*with*-前置詞構文の初出例はc1250年 'A fetles *witð* water *fild*.' がOEDに示されている。

- (11) a. Bardolph, get thee before to Coventry; *fill* me bottle of sack.
 (1H4.IV.ii.1-2)

- b. These Moors are changeable in their wills—*fill* thy purse *with* money.
(OTH.I.iii.346-7)

2.3 *furnish*

初期近代英語には二重目的語構文が³3例, *with*-前置詞構文が⁴49例, *to*-前置詞構文が⁵1例観察される。二重目的語構文の初出例は(12a)に示す Shakespeare (1596)の例である。OED (s. v. *furnish*, v. 5)も同じ例を挙げている。*with*-前置詞構文の初出例は, OED (s. v. *furnish*, v. 4)によると, a1553年の 'Whan the shyppes was *fournyshyd with* vytaylles, than he put therin his horses.' という例である。*to*-前置詞構文の初出例は, OED (s. v. *furnish*, v. 8)によると, 1563年の例 'I may nocht *furnise to* this excellent werk euery kind of necessar waippin.' である。OEDは, この授与を表す意味はフランス語の影響で主に18世紀から現れるようになるという。以下に二重目的語構文は3例とも示す。

- (12) a. 'Tis now but four of clock, we have two hours
To *furnish* us. (MV.II.iv.8-9)
though I cannot *furnish* you myself, you are sure, yet I'll find a way.
(Wycherley, IV.iii.14)
… so I have here in store
A means to *furnish* you, (T. Heywood, IX. 46-7)
- b. I *furnished* him *with* coin, (Dekker, I.i.21)
- c. That shall be rack'd, even to the uttermost,
To *furnish* thee *to* Belmont, to fair Portia. (MV.I.i.181-2)

2.4 *present*

初期近代英語には二重目的語構文が⁶9例, *with*-前置詞構文が⁷25例, *to*-前置詞構文が⁸42例観察される。*to*-前置詞構文が圧倒的に多く観察される状況は他の *provide* 類動詞には見られない特徴である。このことから, *present* には, 授与の相手を明示する前置詞形式が早くから発達していたことが予測される。OED (s. v. *present*, v. 11, 13)によると, 動詞 *present* は 'to offer, proffer, give' という意味の場合, 二重目的語構文, *with*-前置詞構文, *to*-前置詞構文の3つの形式にほぼ同時期に現れている。初出例は, 二重目的語構文ではc1325 'he *presented* him also Other thinges fele mo.', *with*-前置詞構文ではa1300 'Jesus ..bar it ham als in a ball, And *present* pan his moder *with-all*.', *to*-前置詞構文では13xx 'He *presented* it *to* be kynge.' である。さらにOED (s. v. *present*, v. 13a)は, 動詞 *present* は今日の英語ではあるものを贈り物として献呈し, それが相手の手元に保存されることを表すという。ここで重要な点は, この意味では常に *with*-前置詞構文に限定されることである(但し, 大抵はイギリス英語の場合)。つまり, *present* は一般的な授与の意味では14世紀のほぼ同時期に二重目的語構文, *with*-前置詞構文, *to*-前置詞構文の3つの形式に現れて構文間に明確な区別はなかったが, 後に特殊化された授与の意味になると, *with*-前置詞構文に特化されたと考えられる。特殊化された授与の意

味と一般的な授与の意味とを区別するのに異なる統語構造 (*with*-前置詞構文と二重目的語構文)を用いて表すことは歴史的に見ても自然なことである。以下にそれぞれの例を挙げる。

- (13) a. Will you reject that noble and free league
Of amity and love which I *present* you? (Webster, III.v.42-3)
b. I did *present* him *with* the Paris balls. (H5.II.iv.131)
c. I also am
Longer to live most weary, and *present*
My throat *to* thee and *to* thy ancient malice; (COR.IV.v.94-6)

2.5 *provide*

初期近代英語には二重目的語構文が18例, *with*-前置詞構文が4例見られる。二重目的語構文は *provide* 類二重目的語動詞のなかでは最も多く観察され, *with*-前置詞構文を圧倒している。*for*-前置詞構文は *provide* が現れる3つの形式のなかでは最も多い23例が見られる。1節で挙げた (3c) の例を改めて示しておく。

- (14) Lord, what musick hast thou *provided for* the Saint in Heaven, ...?
(Walton, 16/21) (= (3c))

動詞 *provide* は1538年になって *to*-前置詞構文にも初めて現れる。本調査ではこの事例は見られなかったが, (15c) にOEDからの例を示しておく。このように *provide* は, 2.10節に述べる *bestow* と同様, 最も多い4つの形式に現れる。OED (s. v. *provide*, v. 5, 8) によると, 二重目的語構文の初出例は1581年に '*Provide* me ynke and paper, and I will write.' という例が示されているが, (15a) に示すとおり, 本調査ではTyndale (1530) に多少早い例が見い出される。*with*-前置詞構文の初出例はOEDには14xx年に '*With help of her .. So prudently with vertu hus to prouyde.*' という例が見られる。*for*-前置詞構文は1552年に '*The bread and wyne for the Communion shall be prouyded by the Curate.*' という例が初出する。以下に初期近代英語の各例を示す。

- (15) a. God will *provide* him a sheep for sacrifice. (Tyndale, ch. 22, 15-6)
b. Thus have wee no just quarrell with Nature, for leaving us naked, or to envie the hornes, hoofs skins, and furs of other creatures, being *provided with* reason, that can supply them all. (Browne, Sect 18, 34-6)
c. Al thyng that God and nature hath *prouydyd to* hym. (OED, 1538 Starkey *England* I.i.10)

2.6 *supply*

興味深いことに *supply* は初期近代英語ではまだ二重目的語構文には現れない。本調査にもOED, Jespersen (1927), Poutsma (1926, 1928), Curme (1931), Visser (1963, 1973)

にも二重目的語構文の例は見られない。また前置詞構文も、*with*-前置詞構文にのみ12例が現れるだけで、他の前置詞構文には現れない。OED (s. v. *supply*, v¹. 2, 6) によると、c1470年に *with*-前置詞構文 'Agayne Wallace he prewit in money press, *With* Inglismen *suppleit* thaim at his mycht.' に、1704年に *to*-前置詞構文 'Nearer Care .. *supplies* Sighs *to* my Breast, and Sorrow *to* my Eyes.' に初出している。今日では二重目的語構文 'A youngster in school *supplied* me the answer.' (Webster³) (イングランド英語では一般的でない)、*with*-前置詞構文 'Foreign governments *supplied* the rebels *with* arms.' (OALD⁶), *for*-前置詞構文 'He *supplies* arms *for* the rebels.' (Huddleston and Pullum 2002, p. 134), *to*-前置詞構文 'Foreign governments *supplied* arms *to* the rebels.' (OALD⁶) のいずれの構文にも現れる。以下に初期近代英語で唯一見られる形式、*with*-前置詞構文の例を1例示す。

(16) hee *supplies* them *with* Rceipts, (Herbert, 247/16)

B. 今日では稀な動詞

今日では二重目的語構文には稀にしか現れない *provide* 類動詞を見てみたい。

2.7 *arm* (= 'to furnish with arms or requisite tools')

初期近代英語には二重目的語構文が1例、*with*-前置詞構文が2例見られる。二重目的語構文の初出例は(17a)に示すShakespeare(1609-10)の例である。OED (s. v. *arm*, v¹. 2)も同じ例を挙げている。*with*-前置詞構文の初出例は、OED (s. v. *arm*, v¹. 2d)によると、1534年に 'They haue aredyed the mylle, and *armed* it *with* stones of encrease.'という例が見られる。今日では、現代英米語の文法書、語法書を見ても、二重目的語構文の例は見られず、専ら*with*-前置詞構文に見られるだけである。以下に*with*-前置詞構文は2例とも例示する。

(17) a. *Arm* me audacity from head to foot, (CYM.I.vi.19)

b. I'll *arm* thy brow *with* woman's heraldry. (Tourneur, I.ii.177)

I am arriv'd for fruitful Lombardy,

.....

And by my father' love and leave am *arm'd*

With his good will and thy good company, (SHR.I.i.3-6)

2.8 *charge* (= 'to impose a duty, task, or responsibility')

初期近代英語には二重目的語構文が1例、*with*-前置詞構文が12例見られる。二重目的語構文の初出例は(18a)に示すChapman(1607)の例である。OED (s. v. *charge*, v. 13)には二重目的語構文の例は示されていない。*with*-前置詞構文はc1320年に 'He *scharged* hem *with* his message.' が初出する。今日では、現代英米語の文法書、語法書を見ても、この意味で二重目的語構文に現れる例はほとんど見られないが、*with*-前置詞構文には見られる。

- (18) a. I pray thee talk no more but shut the dores. Doe what I *charge* thee.
(Chapman, III.ii.294ll)
b. What you have *charg'd* me *with*, that have I done, (LR.V.iii.163)

2.9 *hang* (= 'to furnish or decorate with things suspended about or around')

初期近代英語には二重目的語構文が1例, *with*-前置詞構文が2例見られる。二重目的語構文の初出例は(19a)に示す Shakespeare (1598-9) の例である。OED (s. v. *hang*, v. 5) には二重目的語構文の例は示されていない。*with*-前置詞構文は1634年に 'Their eares *hung with* five, six or eight Rings.' が初出する。今日では, 現代英米語の文法書, 語法書を見ても, この意味で二重目的語構文に現れる例はほとんど見られないが, *with*-前置詞構文には見られる。以下に *with*-前置詞構文は2例とも示す。

- (19) a. *Hang* her an epitaph upon her tomb. (ADO.V.i.284)
b. *Hang* him *with* his pen and inkhorn about his neck. (2H6.IV.ii.109-10)
…, it was *hang'd*
With tapestry of silk and silver; (CYM.II.iv.68-9)

(19a) は前置詞構文で表現すると 'Hang an epitaph upon her tomb *for* her.' と表せよう。*hang* それ自体は明示的に授与を意味するわけではないが, ここでは *for*-前置詞構文と交替可能な受益を表す二重目的語構文として生起している。類例は今日でも観察される。(e. g., 'She *danced us* a waltz.' 'Kill me a dragon.' Green (1974, pp. 94, 96))

C. 今日では廃用になっている動詞

今日, 二重目的語構文では廃用になっている *provide* 類動詞を見てみたい。

2.10 *bestow*

初期近代英語には二重目的語構文が1例, *with*-前置詞構文が2例, *to*-前置詞構文が1例, *on*-前置詞構文が72例見られ, *on*-前置詞構文が圧倒的に多い。*provide* 類二重目的語動詞のなかでは, 2.5節で述べた *provide* と同様, 最も多い4つの形式に現れている。二重目的語構文の初出例は(20a)に示す Shakespeare (1588) の例である。OED (s. v. *bestow*, v. 6c) も同じ箇所を初出例として挙げ, 今日では廃用であると述べている。*with*-前置詞構文はOEDには全く見られないが, 本調査での最も早い例として, (20b)に挙げる Deloney (1597) が見られる。*to*-前置詞構文は(20c)に示す Shakespeare (1605-6) の例が最も早い。OED (s. v. *bestow*, v. 6c) も同じ箇所を初出例として挙げ, 二重目的語構文と同様, 今日では廃用であると指摘する。出現数が最も多い *on*-前置詞構文は今日でも最も一般的な形式である。OED (s. v. *bestow*, v. 6b) によると, 1535年に初出例 'All that was halowed for the house of the Lorde, haue they *bestowed on* Baalim.' が見られる。以下に *with*-前置詞構文は2例とも示す。

- (20) a. … I gave her physic
And you must needs *bestow* her funeral; (TIT.IV.ii.162-3)
- b. But Father (quoth *Iack of Newbery*) what will you *bestow with* her?
(Deloney, II, 93-4)
… I have *bestow'd*
My careless blood *with* you, (Beaumont & Fletcher, IV. 470-1)
- c. Lay comforts to your bosom, and *bestow*
Your needful counsel *to* our businesses, (LR.II.i.126-7)
- d. This Master *Benedicke* fell greatly enamoured of this maiden and therefore offered much courtesie to her, *bestowing* many gifts *on* her.
(Deloney, VII, 14-6)

2.11 *fit* (= 'to supply, furnish, or provide with what is fit or necessary')

二重目的語構文が1例, *with*-前置詞構文が8例見られる。二重目的語構文は, 最も早い例として, (21a) に示す Ford (1633) の例が見られるが, OED (s. v. *fit*, v¹. 11) には二重目的語構文の例は全く示されていない。*with*-前置詞構文の初出例は (21b) に示す Shakespeare (1591) の例である。OED (s. v. *fit*, v¹. 11) も同じ箇所を初出例として挙げ, 今日では廃用であると述べている。以下に二重目的語構文と *with*-前置詞構文の例を1例ずつ挙げる。

- (21) a. and now [I] have *fitted* her a just payment in her own coin. (Ford, IV.ii.84)
- b. Gentle Lucetta, *fit* me *with* such weeds
As may beseem some well-reputed page. (TGV.II.vii.42-3)

2.12 *possess* (= 'to endow with; to bestow upon; to give something to')

OED (s. v. *possess*, v. 8a) は 'to endow with; to bestow upon; to give something to' という意味では二重目的語構文と *to*-前置詞構文の例を示していない。しかし, 本調査では二重目的語構文が (22a) に挙げる2例, *to*-前置詞構文は (22c) に挙げる1例が見られる。(22b) に挙げる *with*-前置詞構文は全部で31例見られるが, OEDによると1549年の例 'He *possessis* vthir pure pepil .. *vitht* the samyn reches.' が初出例である。今日ではこの語義そのものが廃用に帰しているため, 二重目的語構文, *to*-前置詞構文, *with*-前置詞構文のいずれも現代英語では用いられない。以下に二重目的語構文は2例とも示す。

- (22) a. I give you here the faith of an unspotted virgin that you only shall *possess* me as a lover, (Lyly (1591), IV.i.61-3)
Well, I must do't.
Away, my disposition, and *possess* me
Some harlot's spirit! (COR.III.ii.110-2)
- b. This man whom hand to hand I slew in fight may be *possessed with* some

store of crowns. (3H6.II.v.57)

- c. God almighty bless thee, increase thee .. , and give thee the bless of Abraham: both *to* thee and *to* thy seed with thee that you mayest possess the land which God gave unto Abraham. (Tyndale, ch. 28/5-8)

これまで説明した個々の動詞に関して、各構文ごとに、その出現年をまとめると表Ⅱのようになる。初出年が明確な動詞はその年代とともに出典を挙げ、不明の動詞は本調査で見られた例のうち最も早い例の出現年と作家名を挙げる。ShはShakespeare, DOC (Double Object Construction) は二重目的語構文, WITHは *with*-前置詞構文, FORは *for*-前置詞構文, TOは *to*-前置詞構文, ONは *on*-前置詞構文を表わす。

〈表Ⅱ〉動詞が現れた文形式とその出現年

arm	WITH (1534, OED)	DOC (1609-10, Sh)		
bestow	ON (1535, OED)	DOC (1588, Sh/OED)	WITH (1597, Deloney)	TO (1605-6, Sh/OED)
charge	WITH (c1320, OED)	DOC (1607, Chapman)		
feed	DOC (c950, OED)	WITH (c1000, MED)		
fill	WITH (c1250, OED)	DOC (1597-8, Sh)		
fit	WITH (1591, OED)	DOC (1633, Ford)		
furnish	WITH (a1533, OED)	TO (1563, OED)	DOC (1596, Sh)	
hang	DOC (1598-9, Sh)	WITH (1634, OED)		
possess	TO (1530, Tyndale)	WITH (1549, OED)	DOC (1591, Lyly)	
present	WITH (a 1300, OED)	DOC (c1325, OED)	TO (13xx, OED)	
provide	WITH (14xx, OED)	DOC (1530, Tyndale)	TO (1538, OED)	FOR (1552, OED)
supply	WITH (c1470, OED)	TO (1704, OED)	DOC (--)	

表Ⅱを全体的に見てみると、12種の動詞のうち、二重目的語構文に先に現れる動詞は *feed* と *hang* のみである。他の10種の動詞は各種前置詞構文に先に現れている。ME期に初出する動詞は *charge*, *fill*, *present*, *provide*, *supply* の5種、初期近代英語に初出する動詞は *arm*, *bestow*, *fit*, *furnish*, *hang*, *possess* の6種である。このうち、*arm*, *hang* は二重目的語動詞としては今日では稀にしか見られず、*bestow*, *fit*, *possess* は二重目的語動詞としては今日では廃用になっている。

つまり、ほとんどの動詞が *with*-前置詞構文を始めとする各種前置詞構文に先に現れ、また、既に表Ⅰで見たとおり、動詞の出現数も、前置詞構文が圧倒的に多い状況である。このことは、*provide* 類二重目的語動詞が通常の授与を表すのではなく、特殊な含意をもつことと無関係ではない。爵位を授けるなどの格式張った授与を表したり (*bestow*, *hang*, *present*)、足りないものや必要なものを与えて充足させる意味を表したり (*feed*, *fill*, *fit*, *furnish*, *possess*, *provide*, *supply*)、身体全体に(鎧などを)着せることを表したり (*arm*)、負担や仕事を(無理に)課す (*charge*) など、すべて特殊化された ('specialized') 授与の意味を表す動詞である。通常の授与を表す二重目的語動詞とは異なり、特殊な含意をもつ授与動詞であることから、二重目的語構文より明確にその含意や文法関係を表しやすい各種前置詞構文に数多く現れていると考えられる。

二重目的語構文に現れる動詞の初出年を見てみると、全12種のうち、*arm* (1609-10)、*charge* (1607)、*fill* (1597-8)、*fit* (1633)、*furnish* (1596)、*possess* (1591) の6種の動詞は全て初期近代英語に初出している。この6種の動詞は、特殊な授与の意味を表すとはいえ、通常の二重目的語動詞が表す授与の意味に近似している。このため、6種の動詞は、OE期やME期に *with*-前置詞構文に現れた *feed*, *present*, *provide* が二重目的語構文にも現れていることを、いわば、モデルにして、文法的拡張によって、初期近代英語期に二重目的語構文にも現れるようになったと思われる。動詞 *supply* はどうか。 *supply* は今日では二重目的語構文と *with*-前置詞構文のほかに *to*-前置詞構文や *for*-前置詞構文にも現れ、*provide* 類二重目的語動詞のうち、最も多くの形式に現れている。しかし、2.6節でも述べたとおり、*supply* が現れる初期近代英語の二重目的語構文は、本研究をはじめOED, Poutsma (1926, 1928), Jespersen (1927), Curme (1931), Visser (1963, 1973) にも全く示されていない。このことから、例えば、*provide* などの類似の意味をもつ動詞が *with*-前置詞構文のほかに二重目的語構文にも現れていることをモデルにして、初期近代英語期以後、*supply* の用法が *with*-前置詞構文から二重目的語構文に拡張したのではないかと考えられる。

3 まとめ

二重目的語構文と *with*-前置詞構文の両方に現れる *provide* 類二重目的語動詞は、いずれの構文に先に現れるか、どちらの構文に数多く現れるかという点において一様ではなく、動詞によって異なることが明らかになった。10種の動詞が *with*-前置詞構文を始めとする各種前置詞構文に先に現れ、二重目的語構文に先に現れる動詞は *feed* と *hang* しか見られない。出現数に関しては、*bestow* は *on*-前置詞構文に、*present* は *to*-前置詞構文に圧倒的に多く現れ、*arm*, *hang* を除く7種の動詞 (*charge*, *feed*, *fill*, *fit*, *furnish*, *possess*, *supply*) は *with*-前置詞構文に圧倒的に多く見られる。*with*-前置詞構文よりも二重目的

語構文に明らかに多く見られる動詞は *provide* のみである。すなわち、全体的に見ると、*provide* 類二重目的語動詞は、ほとんどの動詞が *with*-前置詞構文を始めとする各前置詞構文に先に現れ、動詞の出現数も前置詞構文が圧倒的に多い状況にある。

このような分布は、*provide* 類二重目的語動詞が通常の授与的意味とは異なり、特殊な含意をもっていることによると思われる。*bestow*, *hang*, *present* は、ものを献呈するなどの格式張った授与を表し、*feed*, *fill*, *fit*, *furnish*, *possess*, *provide*, *supply* は足りないものや必要なものを与えて充足させる意味を表し、*arm* は身体全体に鎧などを着せることを表し、*charge* は負担や仕事を（無理に）課すという意味を表す。これらは特殊な授与を意味することから、通常の二重目的語構文ではなく、文法関係を明示し易い *with*-前置詞構文に多く生起している。しかし、特殊な授与の意味を表すとはいえ、通常の二重目的語動詞が表す授与の意味に近似しているため、初期近代英語では（文法的）拡張によって6種の動詞が *with*-前置詞構文のほかに二重目的語構文にも現れるようになったと思われる。このことを歴史的に見てみると、総合的形式から分析的形式へと変化する統語プロセスが、逆に、分析的な *with*-前置詞構文から総合的な二重目的語構文へと変化しており、通常とは反対の歴史的变化が見られる点で興味深い。

参考文献

1次資料（紙面の都合上、引用例の出典に限る）

- Beaumont, Francis and John Fletcher. 1905. *The Works of Francis Beaumont and John Fletcher, Vol. I* ed. by Arnold Glover (Cambridge English Classics). Cambridge: Cambridge University Press. ("The Maids Tragedy" [1619])
- Browne, Sir Thomas. 1964. *Religio Medici and Other Works (1643-1716)* ed. by L. C. Martin. Oxford: Clarendon Press. ("Religio Medici" [1643])
- Chapman, George. 1964. *Bussy D'Ambois (1607-8)* ed. by Nicholas Brooke (The Revels Plays). London: Methuen.
- Congreve, William. 1953. *The Way of the World (1700)* in *Restoration Plays with an Introduction by Sir Edmund Gosse* (Everyman's Library 604). London: J. M. Dent & Sons.
- Deloney, Thomas. 1961. *The Novels of Thomas Deloney (?1597-98)* ed. by Merritt E. Lawlis. Bloomington: Indiana University Press. ("The Pleasant History of John Winchcomb, in His Younger Years Called Jack of Newbery" [?1597])
- Dekker, Thomas. 1927. *The Shoemaker's Holiday (1599)* ed. by Wilfrid J. Halliday. London: Methuen.
- Farquhar, George. 1953. *The Beaux-Stratagem (1707)* in *Restoration Plays with an Introduction by Sir Edmund Gosse* (Everyman's Library 604). London: J. M. Dent & Sons.
- Fisher John. 1876. *The English Works of John Fisher (1509-35)* first collected by John E. B. Mayor. EETS ES 27. ("Sermon sayd in the Cathedrall Chyrche of Saynt Paule within the Cyte of London" [1509]; "Sermon Made Agayn the Pernicious Doctryn of Martin Luther" [1521])

- Ford, John. 1968. *'Tis Pity She's a Whore* (1633) ed. by Brian Morris. London: Ernest Benn.
- Herbert, George. 1941. *The Works of George Herbert* (1617-40) ed. by F. E. Hutchinson. Oxford: Clarendon Press. ("A Priest to the Temple, or the Country Parson" [1652])
- Heywood, Thomas. 1961. *A Woman Killed with Kindness* (1603) ed. by R. W. Van Fossen (The Revels Plays). London: Methuen.
- Lyly, John. 1949. *Endimion, The Man in the Moone* (1591) in *The Minor Elizabethan Drama, Vol. II* with an Introduction by Ashley Thorndyke (Everyman's Library 492). London: J. M. Dent & Sons.
- Nashe, Thomas. 1966. *The Works of Thomas Nashe, Vol. I* ed. by Ronald B. McKerrow. Oxford: Basil Blackwell. ("Pierce Penilesse His Supplication to the Diuelle" [1592])
- Shakespeare, William. 1997. *The Riverside Shakespeare Second Edition* (1589-1613) ed. by G. Blakemore Evans. Boston: Houghton Mifflin.
- Tourneur, Cyril. 1966. *The Revenger's Tragedy* (1607) ed. by R. A. Foakes (The Revels Plays). London: Methuen.
- Tyndale, William (transl.). 1992. *Tyndale's Old Testament* (1530) ed. by David Danielle. New Haven: Yale University Press.
- Udall, Nicholas. 1984. *Ralph Roister Doister* (?c1553) in *Four Tudor Comedies* ed. by William Tydeman. Harmondsworth: Penguin Books.
- Walton, Izaak. 1962. *The Complete Angler* (1653) with an Introduction by Margaret Bottrall (Everyman's Library 70). London: J. M. Dent & Sons.
- Webster, John. 1964. *The Tragedy of the Duchess of Malfi* (1623) ed. by Russell Brown (The Revels Plays). London: Methuen.
- Wycherley, William. 1965. *The Country Wife* (1675) ed. by Thomas H. Fujimura. London: Edward Arnold.

2次資料

- CEDAL³ = *Collins Cobuild English Dictionary for Advanced Learners*. Glasgow: Harper Collins, 2001.
- Curme, G. O. 1931. *A Grammar of the English Language, vol. III. Syntax*. Boston: D. C. Heath and Company.
- Green, G. 1974. *Semantics and Syntactic Regularity*. Bloomington: Indiana University Press.
- Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Jespersen, O. 1927. *A Modern English Grammar on Historical Principles, Part III: Syntax. Second Volume*. Heidelberg: Carl Winters.
- LAAD = *Longman Advanced American Dictionary*. Harlowe: Longman, 2000.
- MED = *Middle English Dictionary*. Ann Arbor. MI: University of Michigan Press, 1952-2000.
- OED = *The Oxford English Dictionary 2nd ed.*, Prepared by J. A. Simpson and E. S. C. Weiner. Oxford: Clarendon Press, 1989.
- NODE = *The New Oxford Dictionary of English*. Oxford: Clarendon Press, 1998.

OALD⁶ = *Oxford Advanced Learner's Dictionary 6th ed.*. Oxford: Oxford University Press, 2000.

Poutsma, H. 1926-28. *A Grammar of Late Modern English. Part II, Section II: The Parts of Speech & Part I, First Half: The Sentence*. Groningen: P. Noordhoff.

Visser, F. Th. 1963-73. *An Historical Syntax of the English Language*. Leiden: E. J. Brill.

Webster³ = *Webster's Third New International Dictionary*. Springfield, Mass.: G. & C. Merriam Company, 1961.

小西友七 (編). 1980. 『英語基本動詞辞典』東京: 研究社.

尾上政次. 1957. 『現代米語文法』東京: 研究社.

竹林 滋・東 信行・高橋 潔・高橋作太郎. 1988. 『アメリカ英語概説』東京: 大修館.